

○議長（茅沼隆文）

再開いたします。

午前 11 時 00 分

○議長（茅沼隆文）

引き続き、一般質問を行います。

7 番、下山千津子議員、どうぞ。

○7 番（下山千津子）

皆様、こんにちは。7 番議員、下山千津子でございます。

通告に従いまして、子どもたちの未来像に向けて具体的取り組みの考えは、の質問をさせていただきます。

新たに改正された教育基本法では、道徳心を培うことが明記されました。特に、児童・生徒が成長期において、命を大切に作る心や他人を思いやる心、また善悪の規範意識などの道徳性を身につけることは大変重要と考えます。日本では、戦争がなく平和な時代が続いております。しかしながら、世界に目を向けますと、世間を震撼させる事件が昨今、頻繁に発生しております。子どもたちの明るい未来をつくるには、今こそしっかりとした道徳心のもと、家庭、地域社会、学校における日頃の絆づくりとコミュニケーション教育に力を注ぐべき時代であると感じます。

本町では、平成 27 年度に「教育の町かいせいの未来像」の中で学力、体力、道徳心にすぐれた子どもを育てるとされ、その具体的な取り組みの中に新たな挑戦として土曜学校の創設を打ち出し、道徳心を培うとされております。しかし、平成 28 年 6 月から「あじさい塾」、開成町土曜学校を「オール開成で魅力ある教育」と銘打って平成 29 年 3 月までのカリキュラムをお示ししておりますが、その中には特段、道徳心を培うための施策が見受けられません。そこで、次の 2 点について伺います。

- 1、町長は、幼・小・中学校で道徳心にすぐれた子どもをどのように育てるのか、
- 2、土曜学校での道徳の具体的な取り組みは。

以上、壇上からの質問とさせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（烏海 均）

下山議員の御質問にお答えします。具体的な取り組みにかかわる質問なので、私から答弁させていただきます。

まず、一つ目の幼・小・中学校で道徳心にすぐれた子どもをどのように育てるのかについて、お答えします。

町長の方針としまして昨年の 6 月議会でも述べておりますが、「教育の町かいせいの将来像」の中で、一つ目として学力も体力も道徳心もすぐれた子どもを育てる、二つ目として全町民がかかわれる仕組みづくり、三つ目として地域力の活用を掲げて、学校の授業や学校経営の中だけでなく、子どもたちに体験教育として力をつけていく

ことを目指しています。

この町長の方針を受けまして昨年立ちあげた開成町総合教育会議でも、議論を重ね、重点的な取り組み5項目を定めながら、子どもたちの健全育成を重点にしながら道徳心を養うことを盛り込んだ開成町教育大綱を策定しています。各園・学校において、学習指導要領に基づく指導を、この大綱に述べられた精神を十分に勘案しながら行っています。また、教育委員会が直接実施する土曜学校等においても、大綱の趣旨を活かして具体の取り組みを行っています。

まず、幼稚園での道徳に関する取り組みは、学校のように時間ごとではありませんが、園での生活全ての中で取り組んでおり、特に、人間関係の指導の領域において道徳心を育てています。

学校では、道徳の時間を中心として教育活動全体を通じて道徳教育を行うこととされており、小学校の教育課程で示している道徳教育の目標は、道徳的な心得、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととあります。学校での道徳の扱いは、道徳の授業だけでなく、道徳教育全体計画を作成し、各教科はもちろん、総合的な学習の時間や特別活動などと道徳を関連付けながら指導をしています。

また、各学校では、道徳教育の推進を主とする教師が中心になりまして道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画を作成し、成長過程に合った指導をしています。例えば、小学1、2年生では、主として自分自身に関することとして、うそをついたりごまかしたりしないで素直に伸び伸びと生活すること、ほかの人とのかかわりに関することとして、気持ちの良い挨拶、言葉遣い、動作などに心がけて明るく接すること、主として自然や崇高なものとかかわりに関することでは、生きることを喜び生命を大切にする心を持つ、集団や社会とかかわりに関することでは、郷土の文化や生活に親しみ愛着を持つ、を道徳の内容として取り組んでいます。教育課程の中では子どもの発達段階に応じた内容が定められており、これを着実に実行し、子どもたちに道徳心が身につくよう指導しています。

道徳的な考え方や思い、知識としては、教育課程の中で成長過程に沿って十分授業はしていますが、日常生活の中で実践することはなかなか難しく、学校生活全体の中で繰り返し繰り返し指導し、道徳心が活かされた生活ができるよう取り組んでいるのが実情です。

次に、二つ目の土曜学校での道徳の具体的な取り組みは、についてお答えします。

開成町の土曜学校、「あじさい塾」と称します講座は、子どもたちが興味の湧くテーマを設定し、その中で指導主事、教育指導専門員が中心となり、学校の道徳教育の目標や内容を取り入れ、挨拶をしっかりすること、何事も自分から積極的に取り組むこと、仲間と協力し行うことの大切さなど、人が生活していく上で必要な道徳心が身につくよう講座に取り入れ、土曜学校「あじさい塾」を開催しています。

学校の先生から受ける授業とは違い、それぞれの場で専門的な技能を活かして働いている方や活動している人のお言葉や考え方等、すばらしい生き方に共鳴し、自分をより高めていくために学校の授業も一生懸命やらなくては、このような人にはなれな

いと自覚し、意欲的な学校生活を送る子どもたちになることも大きな土曜学校の狙いとしています。

学校での道德教育、土曜学校「あじさい塾」、青少年指導員が実施する事業やジュニアサマースクール、北海道幕別町との青少年交流事業など、様々な場面が子どもたちの道德心の育成につながるものであり、町長の目指す「教育の町かいせいの未来像」の実現に向け、学校教育、社会教育を含め取り組みを行っています。

議員の皆様方にも声かけ、見守り活動等、暖かな言葉をおかけしていただいていることも、子どもたちの大切なふれあいの機会になっていると思います。今後とも子どもたちの御指導につきまして、よろしく願いいたします。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

本日は、私の資料で「あじさい塾」という開成町土曜学校を、この資料、リーフレットなのですが、議長のお許しをいただきまして皆さんに提供していただけることに感謝申し上げます。

それでは、質問をさせていただきます。

ただいま教育長から、園、学校における子どもたちへの道德教育の現状について、一定の答弁をいただきました。既に御承知のとおり、我が国では教育行政において、昨年の27年4月から地方教育行政にかかわる法律の一部が改正されてございます。特に、民意を代表する首長と教育委員会との連携の強化を図るなどの大きな転換がなされました。

その転換に対応して、「教育の町かいせいの未来像」の基本的な考え方として、町長は2期目の公約においても学力も体力も道德心もすぐれた子どもを育てると打ち出されているわけで、この考えを具体化するために、特に新たな挑戦といたしまして土曜学校の創設を掲げられております。町長は、この土曜学校について、普通の学校教育とは違った地域の方々の力をかりる体験型教室で、学力のすぐれた、例えばですが、英語力やIT関係など専門知識のある人材ネットワークを構築してカリキュラムを組み、全体として学力も体力も道德心もすぐれた子どもを育てていきたいと、昨年の私の9月の一般質問で答弁をされております。

土曜学校の創設を評価するとともに、どんな夢のある、希望の持てる事業が行われるのか、大変期待をしておりました。しかし、この土曜学校のプログラムの感想は、先ほど壇上で述べましたが、小学校の保護者や町民の皆様の見解も私と同じで期待外れとの感想でございました。なぜ、私が再三にわたりまして、この質問をせざるを得ないかの理由といたしまして、今の社会情勢や家族形態、つまり家族生活が変わり、子どもの主体的な心は育ちにくい環境に置かれたままで、将来を大変危惧するためでございます。開成町は幸いにして大きな問題や事件は起きてございませんが、今こそ道德心が育つような機運づくりについて改めて重要と考え、質問をさせていただきます。

す。

それでは、再質問をさせていただきます。

今年の6月に全戸に配布されてお示しされた、先ほど申しました、この「あじさい塾」のリーフレットでございますが、土曜学校のリーフレットの中を見開いてみますと、「「あじさい塾」とは学ぶことを遊びのように楽しむ塾です」とテーマが打ち出されてございます。この土曜学校は、町長が進める道徳の具体的な取り組みである表現がどこにも見当たらないので、イメージが湧きませんでした。町長が意図する内容が誰にでも分かりやすく伝えられるようにするために、上段の空欄のところに、ここでございますけれども、「学力も体力も道徳心もすぐれた子どもを育てる」というワンフレーズを入れることを提案したいと思いますが、このことについて、どんなお考えでございましょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今の御質問の前に、土曜学校の創設について、まず私から先にお話をさせていただきますければと思います。

まず、開成町の今の子どもたちの現状の認識、私としての考え方を少し話をさせていただきます。

開成町は6年前に南小学校を新しくつくり、それにあわせて開成小学校も3年かけて3億近いお金でリフォームをさせていただいて、教育環境の格差がないようにということで進めてきました。それにあわせて開成小学校の改修工事をさせていただいて、教育環境が変わらないようにということで、今、進めさせていただいております。

そういった中で、地域の人たちが、毎月1日、15日も含めて、多くの人たちが子どもたちの見守りを含めて安全活動をしていただいております。そういった中で、先日も夏祭りに、私、各地区、行かせていただきました。各地区の子どもたちが太鼓をたたいて子どもたちも披露したり、また、模擬店やいろいろな地域の人たちとのかかわりの中で一緒に、屋台村ではないですけども、露店を出していたり。先日の防災訓練、これは中学校全生徒が地域の中に入って、地域の人たちと、どうかかわりが防災、いざとなったときに自分たちができるかというのを含めて、地域の人たちと一緒に考えて考える場をつくって、また、そういう現状が今あります。

そういった中で、今、開成町は、昨年、町制施行60周年という記念の中で開成町の60年前を振り返ったときに、開成町という名前は開成小学校からとられたということのを改めて昨年、認識をして、教育について、改めて開成町は教育の町なのだとということで、土曜学校を創設しながら子どもたちの学力、体力、道徳心を高めていくほうに、さらに力を入れていきたいと。

昨年、あわせて、また教育会議がありまして、教育総合会議の中で教育委員の皆さんとともに、町長として、これからもさらに子どもたちの生きる力をつけていきたいと。学校の授業プラスアルファとして土曜学校をつくっていきたいという中の議論の

中で、子どもたちの学力、体力、道徳心。開成町の地域の人たち全部の力をかりて、地域力、自治会加入を含めて、地域の自治会に対して力を入れている部分も含めて、地域の人たちの力をかりながら子どもたちの力をつけていきたいという方針のもとに、今、始めております。

先ほど、このプログラムの中に道徳心にかかわるものがないという御指摘がありましたけれども、私は、どの項目、どの授業においても、全て道徳心を養われるものだと思います。それは、学校における、先ほど教育長が言われましたけれども、道徳という授業の中の道徳心を養うという部分は学校の中でもやっております。それ以外に、どうしたら、さらに生きる力、道徳心をプラスアルファできるかと。それは、やはり地域の人たちの力をかりて、地域の人たちの持っている能力、力、それを体験という形で子どもたちに提供することによって、子どもたちの能力をさらにアップすることができる。その一つの手段として、土曜学校において地域全体で盛りあげていただけるように、いろいろな地域の人たちに声かけをさせていただいたりしてやっております。

先日、第1回目でお茶の入れ方、これは開成町の人でありますけれども、これが仕事ではありません、これは、そういうお茶の入れ方の資格を持ちながらお茶の飲み方をPRしている人に来ていただいて、子どもたちに指導ほかをやっていただきました。そのときに、募集人数より多くて、また低学年から高学年まで来ていただいて、そういう中で班に分けて。そういう中で、高学年の子どもが低学年にきちんと指導したり、また低学年の子は高学年の子が言うことをきちんと聞いたり、どのようにしたらいいか相談しながら班ごとにやっているという。これは、別に意識してやることではなくて、結果として道徳心が養われるような構成になっていると思います。それは、その仕組みであって、教える人は、また地域の人たちの中でやっていただいておりますので、子どもたちにとっても知らない人ではない。また、学校の先生による教育でもない。改めて教育という言葉でやる必要はないと私は認識しております。知らないうちに道徳心や学力や体力が養われればいい、土曜学校についての認識は、私はそのように考えております。

そのためには、やはり地域の力が必要だと思っています。そういう中で、いろいろな人選をしながら、お願いをしながら、その人たちに今、お願いをして、初年度ということであって、全て、まだ完璧というわけにはいきませんが、そのような形を積み重ねながら、毎年毎年、土曜学校のプログラムを増やししながら、また、いろいろな人に参加をしていただきながら、かかわっていただきながら、地域全体、開成町全体で子どもたちの力を養っていききたいと、そういう認識でおりますので。

今回のプログラムの名称の中で、下山議員が表題として子どもたちの学力、体力、道徳心という表現を入れたほうがいいのかという御提案については、次の改定の際には、そのように改定をさせていただき、趣旨としてはそのような形でありますので、学校の教育。今回、初めて町長として教育委員会の皆さんと協議しながら学校の中に町長の思いを表現できる場所ができたという中の、土曜学校というのは一

つの手段だと考えておりますので、これから、さらに充実をさせながらやっていきたいと思っておりますので。まだ3回ですので、そういう認識の中で、ぜひ御協力をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

教育委員会事務局参事。

○教育委員会事務局参事（加藤順一）

先ほどのチラシに附加することにつきましては、町長が先にお答えいただいたところではございますが、一つ。

このチラシなのですけれども、全戸に配布したのではなくて、子どもたちに向けて、小学校、中学校の子どもたちに向けて、これから先、こんなことが行われるのだなど、それをあらかじめ知っていてほしいよという意味でやっております。そこにあまり大人の思いを入れるというようなイメージは、私どもは持っておりませんで、この中で、次にこういうことをやるのかと、それを楽しみに待っていてほしいよということでございましたのですけれども、先ほど町長の答弁がありましたので、そういったところを勘案しながら、また教育委員会の中でも十分議論しながら、こういったチラシ一つにつきましても作成には万全を尽くしていきたいと、このように考えるところでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

道徳心は目に見えるものではなく、心の問題でございますので大変難しいということとは私も心得ております。先ほど町長が、開成町の子どもたちに対して、また、この土曜学校に対して熱い思いを述べられたわけですけれども、これ全部が道徳だよというふうにおっしゃいましたけれども、かかわった人たちとか関係者は分かると思うのですけれども、ぱっとこれを見たときに、一般の町民とか、私も含めてでございましたが、やはり学力も体力も道徳心もすぐれた子どもを育てるという、そういうワンフレーズが入っていたほうが、より町長の思いや土曜学校に対する理解度は高まると思うのです。それで、私がちょっと感じたことを町民の皆様も感じておられましたので述べさせていただきました。町長は、ここのところに入れてくださるということのお答えをいただきましたので、ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

では、次に、土曜学校の中身の各月の内容でございますが、先ほど行われました6月、7月、9月3日に既に実施されたわけでございますが、講師の方のお名前や具体的内容が、いま少し詳しく書かれていたならば、もっともって目的も興味も湧くのに残念ねと、そういうふうに保護者の方々は私と同じような印象でございました。学力、体力も道徳心もすぐれた子どもを育てるという、そういうワンフレーズが入っていたら、講師の方も、ご自分の講座の中に道徳心を培うことを意識されて取り組まれ

ると考えますが、その点でも、よりよい講座が開催されるのではないかと期待しているところでございます。

次に、土曜学校の子どもたちの参加人数でございますが、開成小学校では480人の児童、開成南小学校で590人の児童、トータルで1,070人でございます。このプログラムから想像します参加比率は、1回に20人といたしまして、3月までに17回開催されておりますので340人となります。11月に開催されてございますNo. 8と9は同じ子どもたちに限定されておりますので、約31%の子どもたちが土曜学校に参加することが考えられます。全体の3割の子どもたちの参加は、私は非常に少ないのではないかなと思ってございますが、一人でも多くの子どもたちに参加していただくような手だてについては、どのようにお考えでございましょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育委員会事務局参事。

○教育委員会事務局参事（加藤順一）

まず、お話の中にありました前段の部分、民間でお願いしております講師等、これからの部分ですけれども、そういった方たちに、例えば、道徳という部分を意識した講座内容を編成していただくと、これは、逆に、それまでに培われた経験等を活かして、そこをやっていただくと。教育長の答弁の中にもありましたように、指導主事とか教育専門員等がその場におります。また、担当者がおりますので、そういった全体の講座の構成の中で、先ほどの挨拶をしっかりしまししょうとか、そういった部分はやらせていただきたいと。

講師をお願いする先生に、何といいますか、御本人さんの専門とする部分以外のところで新たな部分を附加してお願いするというのは、これからまたいろいろお願いするにあたりまして、ちょっと萎縮されて講師のなり手が減ってしまうとか、そういったことも考えられますので、そこら辺のところは。また、講座をお願いします方とは十分打ち合わせはさせていただきますけれども、そこら辺の部分は教育委員会で担っていきなと考えるところでございます。

これから先、土曜学校に参加される子どもたちの関係なのですけれども、確かに、小学生の全体人数からの30%と人数を割り出されていらっしゃるかもしれませんが、そもそも小学校全体が土曜日に、かなりのお子さんたちが、それなりに、例えば塾であったりスポーツ団体とか、そういったところで活動しております。そういった活動の場がない子、では、それを無為に過ごすのではなくて土曜学校に参加していただきたいということで。全体数から、現実的に、どういった団体に所属しているか、どの程度ということ、今、割り出した数字として用意していないのですけれども、考え方としては、そういった無為に過ごす土曜日をこういった土曜学校に参加して。

テーマ設定も、そういった子たちが、では、こんな楽しいテーマがあるのだったら参加してみようとか、そういうようなテーマ設定を今後、考えていきたいということで、できるだけ興味の湧くテーマ、そこら辺を勘案しながらアピールし、そこに子どもたちが積極的に参加していく環境をつくっていきなと、このように考えるところ

ろでございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今、御答弁の中にも、魅力のある施策をしていったら、子どもたちも参加率が増えるのではないかとおっしゃいましたけれども、私もそのように考えてございます。ですが、ここに書いてございます、先ほども町長が大変熱い思いを述べられて、またオール開成で魅力のある教育をと土曜学校に関しては打ち出されているわけですので、ぜひ、そういう意味でも、一人でも多くの子子どもたちに、せっかく実施されるわけですから、参加していただけるようなことをお願いしたいと思えます。

そして、この17回のプログラムの中には中学生を対象としたものが一つもございませんが、これはどうしてでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

では、お答えしたいと思います。

こちらは、チラシの中でございますと枠がございまして、その中に目安の学年というのが入ってございます。例えば、6月の1回目で申しますと、一番下に「目安、小学校1年生から」ということでございまして、これは、大体1年生から中学生まで参加できますというようなことを示してございます。二つ目の7月でございまして目安は5年生からということで、なかなか低学年ですと理解が難しいかなということ想定しております、こちらは小学生から中学生までというようなことで、そういった示し方で、こちらは示しをさせていただいているところでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

それでは、実際に、今まで6月、7月、9月の、9月は北海道の幕別町との交流ということですので小学生のみということだったようでございますが、6月、7月に関しては、結果的に中学生は参加されたのでございましょうか、お伺いたします。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

では、お答えします。

7月の2回目と、この間、行いました9月の3回目につきましては、この8月に幕別町の交流事業ということで小・中学生が参加してございます。その中に、今回は小・中学生19名のうち5名は中学生がおりましたので、7月2日については、中学生は当事者等もなりますけれども5名参加してございます。9月の先日については、1名、

部活の関係がございましたので、9月については4名の中学生ということで参加はしている状況でございます。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

それでは、私の思い過ごしだったので安心いたしました。

それでは、次の質問でございますが、先ほど教育長が、土曜学校での道徳は28年度のプログラムをつくる上で指導主事や教育指導専門員が中心となって計画をいたしましたよと答弁されましたが、町長が昨年9月に私の一般質問で、町長が主導となって直接、教育長へ指示出しをされますよと伺っておりますが、今回のプログラムをおつくりになるにあたりまして、昨年の答弁のように町長は教育長に今回のプログラムの指示出しをされましたでしょうか、お伺いします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

具体的に、やはり私の知っている地域の人たちの中で、もう既にほかの学校に行っていて、いろいろな成果を目に見える形で出している方もおられますので、そういう人にきちんとプログラムに入ってもらいようお願いをしたりとか、そういうことは具体的にきちんとやっております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

理解いたしました。この内容があまり広がりがないように感じたものですからお聞きいたしました。

では、次に、町長は新たな挑戦に、ふるさとを学び郷土の偉人に学ぶ教室の充実とうたわれてございますが、また町内外の人材を広く活かして土曜学校を開催するとされております。町長は、どんなイメージを持って臨もうとされているのか、お聞きしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

具体的に言えば、開成町の歴史を含めて、実際に、もう酒匂川のいろいろな知識を持っている方がおられますし、また開成町に限らず県西地域の中では二宮尊徳翁という方もおられますので、そういった中で、開成町に人材がいなければ範囲を広げて少し近隣まで、そういう専門知識を持った方を含めて、そういう人の力をかりながら土曜学校の中にも含めていきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今、町長答弁にございましたように、郷土の偉人としては二宮金次郎だよということをおっしゃいましたけれども、昨年の9月に教育長も町長も、やはり郷土の偉人は二宮金次郎ですよということの御答弁をいただいてございます。また、町民の何人かの皆様にお聞きしても、同じような金次郎でございました。今、国内でも、新聞に「我が人生」と題し、今年の6月から8月末までの3カ月間、毎日、神奈川新聞に二宮金次郎の教えで生きてこられましたよということで人生を述べておられました方が、この近隣のスーパーの創業者でございましたが、こういう方をお呼びして、国内だけではなく、今、中国からも報徳の教えを勉強に来日されている方も多いと聞いてございますが、土曜学校の中に、ぜひ道德の基本というか、そういう二宮尊徳の教えをこの中に組み入れるというお気持ちはございますでしょうか、お聞きいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えになるかどうか分かりませんが、若干、内部のことも含めて、ちょっとお話ししたいと思いますけれども。

まず、18回という講座の設定でございますけれども、なかなか年間の行事計画等を踏まえて、基本的に空いている土曜日があるかどうかということから、学校長を含めまして、空いている日を選んだというのが実態です。ですから、18回の回数を最初に町長と相談しまして、当初は非常に難しい回数かなと思ったのですが、町長が18回ぐらいやったらどうだということで、こちらに指示がありましたので、ではということで、まず丸をつけて、土曜日にやれるという。

先ほどから言っていますように、参加の対象をどうするかということを含めて、学校行事等で土曜日が空く中学生の日課、それから小学校低学年があく、そういうことをまず物理的にやっていきながら、では、この子どもたちにどのような教材を与えたらいいだろうかという、そういうふうなシステムで決めていったのです。本来は、そうではなくて、このことを教えてやろうという形で決めて、それには何回必要かとやっていくと思うのですが、今回につきましては、まず回数と何月かということを決めた中で、参加対象も、およそ、この学年が参加できてくるだろうという形で組みました。

ですから、今の中では11月に、開成町ってこんなところだよ、水を制するものは、とにかく、どういう人なのということで、4年生の教材を含めて、ここで二宮金次郎を少し扱うかなということで入ってはいます。ですから、今、町長から二宮金次郎とありましたけれども、それは前々から郷土の偉人としての立派な方だよということがありましたので、子どもたちに何とかということで。

これは学校の教材の中でも扱っていますけれども、土曜学校としても1項目、何とか入れられないかということで指導主事と教育専門員が計画をした中で、足柄の歴史再発見クラブの主たる講師を中心にしながら二宮金次郎の部分についても触れてい

こうという形になります。ただ、そのときに、では、誰を対象にするかということが非常に難しいことなので、とりあえずは開成小学校、開成南小学校の4、5、6年生、それから中学1、2年生ぐらいを対象にして二宮金次郎を扱ってみようと考えています。

ですから、参加が少ないというふうに議員はおっしゃいますけれども、まず参加されるかどうかというのをポストに入れていただいて、確実に、この内容でこういうふうにやりますよというのを再度、参加者に返信をして、なおかつ当日、来るかどうかという安全も確保してやるということは、40人でもなかなか大変なことだということも御理解していただきたいと思います。学校に来る、その場所に集合する、そして帰るまでの安全を確保しなくてはいけない、今日、出席するのかどうかということも踏まえまして、なかなか参加体制を確認していくということはいろいろな細かなことがあるということも御理解していただきたいと思います。

金次郎については、今のところ、取り扱うという形で進めております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今、金次郎を取りあげていくということのうれしい御答弁をいただきましたが、この中に、今、水のこととかと言われたのですが、では、11月の8と9ですね、それに取り入れるということでございますでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

最初にもお話ししましたように、およそ、この日ぐらいに、このような内容でというふうに計画はしているのですけれども、講師の都合とか様々なことで変更になることがあります。基本的には、今の状態ですと11月19日を予定しているのですけれども、これも、まだ分かりません。今のところ、そこを予定しているということだけは申しあげられると思います。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

先ほど参事の方からも、魅力ある土曜学校を企画すれば子どもたちも参加数が伸びるのではないかとございまして、今、教育長は、参加人数が増えればいいというものではなくて、大変だよという、前段階の準備が大変ですよというふうなお話も伺ったわけですが、開成町は「教育の町かいせい」でございまして、そして表紙のところに「オール開成で魅力ある教育を」とうたってございまして、大変だとは思いますが、開成町の子どもたちに道徳心を培わせるには、ぜひ土曜学校のこの思いを一人でも多くの皆さんにお伝えするのも一つの方法かなと考えるのでございますが。

その方法の一つとして、今は、先ほど言われましたように、子どもさんの保護者の方とか私たちにもお示しいただいたわけですが、これを全町の皆様にお示するという形では、開成の広報紙に、土曜学校でこんなふうに町民の皆様や子どもたちに道徳心を培わせられるのですよというようなPRの仕方も一つの方法かなと思いますし、講師の方たちの公募に関して、先ほど答弁の中にございましたように教育関係の方が多い中で、もう少し幅を広げた人生経験豊かな、先ほど私も申しあげましたように、ITの企業でお勤めの方だったり、いろいろな分野での講師の方を募集するという方法はいかがでございましょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育委員会事務局参事。

○教育委員会事務局参事（加藤順一）

先ほどのチラシを全戸配布、これは、対象をそもそも子どもたちに向けにつくっておるものですので、これをそのまま全戸に配布する、これは結局、経費の無駄かなと。ただ、結果として、こういうことをやっていますというようなお知らせは、何かの機会を捉えてホームページ上にアップするとか、そういったことの中で、こういった取り組みをしているのだということは町民の皆様にも知っていただきたいと考えているところでございます。

先ほどと今回、また出てきていますけれども、6月議会のときに、その前の和田議員さんの質問、答弁の中からを捉えて、下山議員がITとか、そういったいろいろな能力を持たれている方たちが町民の中に多くいらっしゃるよと、そういった方たちにもお願いしたらというような御提案をいただいているところでございます。そこら辺のところなのですけれども、結局のところ、子どもたちに指導するのだという部分がどうしてもそこに入ってきますので、そういった部分を勘案しながら、先ほど言った、こういったことをやっているのだというPRの中で、あわせて、こういったことを子どもたちに教えることができるのだということを町民の中から積極的に手を挙げていただける方がいらっしゃいましたら、次回以降のテーマ設定の中に検討の素材として考えたいと、このように考えるところでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

今、英語力とかITの問題のお話が出ましたが、実は、昨年9月に町長がそのように答弁をされたわけですので、そういった部分でも努力をされているのかなと思いましたが、ちょっと申しあげた次第でございます。

郷土の偉人に戻るのでございますが、二宮金次郎の教えは、今、全国的に広がりがあるようで、ある楽団が金次郎の一生をミュージカルで来年29年の5月から、小田原を皮切りに金次郎がかかわった市や町で公演を企画されているという、そういう話をお聞きしました。開成町でも、町長、教育長を初め町民の意識も道徳イコール二宮

尊徳と言われますので、来年の6月頃にでも、開成町でも子どもたちや町民にこの劇をお見せして道徳心を養っていただくということはいかがでございましょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

その点の情報については町にも来ておりまして、先日、私もテレビを見させていただいて、「ガイアの夜明け」でしたか、その劇団が地域おこしも含めていろいろなことを始めていると。その中の一つとして二宮金次郎を取りあげて、それを全国の巡業の中でやっていくという中で、スタートがこの地域だということは大変うれしいことなので。時期的なことも含めて、あじさいまつりも来年30回になりますので、そのプレイベントとして位置付けができればなど。

さらに、子どもたちの教育の、先ほど言われましたように情操教育も含めて、生の劇団の芝居を見るということは、もちろん二宮金次郎の中身もあるのですが、そういうこともすごく大事なことでありますので、その点も教育委員会の御協力を得ながら考えていきたいと、今、思っております。

○議長（茅沼隆文）

下山議員。

○7番（下山千津子）

ぜひ、よろしくお願ひしたいと思ひます。その劇団は日本でも三本の指に入る劇団だそうですので、私も今、答弁をいただきまして大いに期待するところでござひます。ぜひ、見てみたいと思ひます。

開成町では先進的な魅力ある土曜学校を運営され、「教育の町かいせいの未来像」に期待して、ぜひオール開成で土曜学校、開成町の子どもたちに道徳心を養えるような方策をとっていただきたいと思ひます。

これで私の質問を終わります。

○議長（茅沼隆文）

これで下山議員の一般質問を終了いたします。